

平成 18 年度 栃木の子どもの学力向上を図る学習指導プラン

# 確かな学力を育むために

## 【中学校・英語科】



平成 19 年 1 月

栃木県総合教育センター

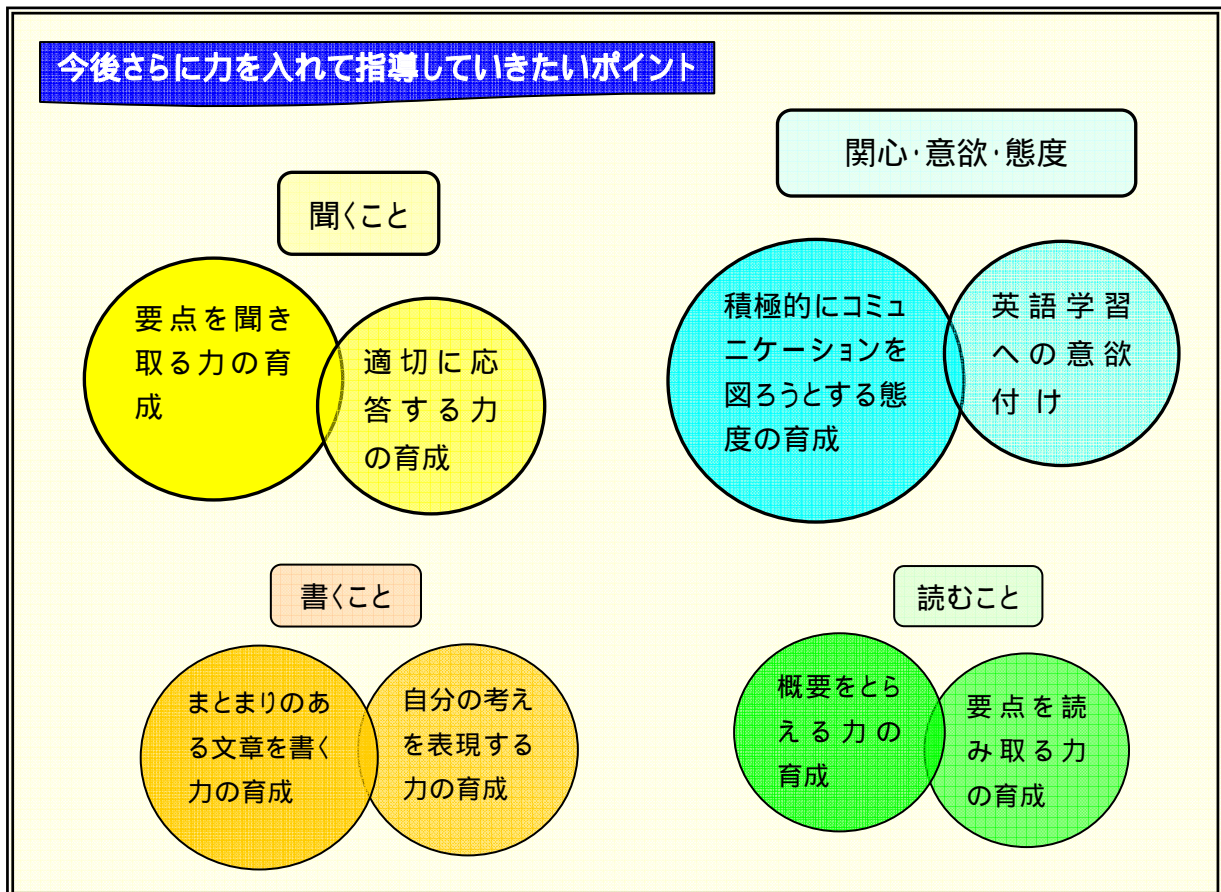
本県では、児童生徒の学習状況を把握するため、昭和 47 年度から「学力水準調査」を、平成 7 年度からは「学習状況調査」を実施してきました。また、全国の状況と比較するため、平成 14 年度、平成 16 年度には「教育課程実施状況調査」を実施しました。

これらの調査のうち、主に「学習状況調査」と「教育課程実施状況調査」の結果を再度分析し、学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめました。

各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

これまでの調査結果から、今後さらに力を入れて指導していきたいポイントは以下の通りです。これらのうち、今回は、「関心・意欲・態度」及び「聞くこと」について学習指導プランを作成しました。先生方の日頃の学習指導にお役立てください。

「読むこと」及び「書くこと」については、平成 17 年度に 3 回シリーズで発行した「栃木の子どもたちの学力向上を図る授業改善プラン」をご参照ください。



**生徒の英語学習への意欲を高める工夫をしましょう**

- 1 「分かる授業」を展開しましょう . . . . . P 2
- 2 家庭学習への意欲を高めましょう . . . . . P 5

**積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しましょう**

- 1 教師が積極的に英語を使い、英語を使う楽しさを伝えましょう . . P 5
- 2 言語活動を工夫し、コミュニケーションの楽しさを味わわせましょう . . P 10

**「聞くこと」の力を高める指導の工夫をしましょう**

- 1 「要点を聞き取る力」を高める指導の工夫をしましょう . . . . . P 14
- 2 「適切に回答する力」を高める指導の工夫をしましょう . . . . . P 18

## 生徒の英語学習への意欲を高める工夫をしましょう

生徒の英語力の向上を図るには、生徒の英語学習への意欲を高めることが大切です。教師は、生徒にとって「分かる授業」を行い、「分かった」「できた」という喜びを実感させ、生徒が英語学習に前向きに取り組めるようにしましょう。

### 1 「分かる授業」を展開しましょう

先生方は、日頃から、生徒にとって分かりやすい授業を行おうと努力されていると思います。しかし、英語の授業が「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と思っている本県生徒の割合は、約4割（平成16年度教育課程実施状況調査より）となっています。



英語の授業は  
分かるわ。

約4割の生徒の回答

これから、生徒にとって「分かる授業」を展開するためのポイントを、二つ示しますので、ぜひ参考にしてください。

### 授業の始めに「本時のねらい」をはっきり示しましょう

このことは、栃木県学力向上委員会からも提言されています。授業のねらいを分かりやすく示すことによって、生徒はその授業を通してどのような力を身に付けられるか理解でき、目的意識をもって授業に臨むことができます。

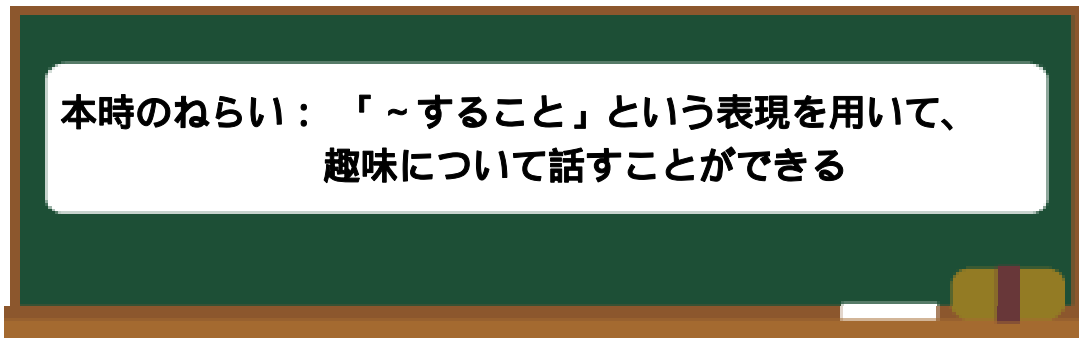
それでは、生徒にとって分かりやすい「本時のねらい」とは、どのようなものか、2年生の動名詞を扱う授業について考えてみましょう。例えば、次のようなねらいはどうでしょうか。

本時のねらい： 動名詞の使い方

本時のねらい： ~ing（~すること）の使い方

まず、「動名詞」と言われても、生徒はどのような表現形式なのか見当もつかないのではないのでしょうか。また、いずれのねらいも、授業を通してどのような力が身に

付くのが明確ではないので、生徒にとっては分かりにくいものとなっています。そこで、次のようなねらいにしてみてもはいかがでしょうか。



このようなねらいにすれば、今日の授業で何が身に付くのがはっきりします。生徒は、どんなことができるようになるのかが分かり、学習意欲も高まることが期待できます。ここで大切なのは、教師側の視点からのねらいではなく、教師と生徒が共有できるねらいとするということです。



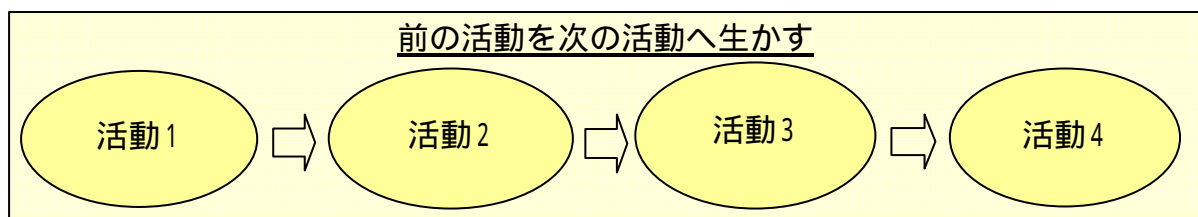
今日の授業をがんばれば、自分の趣味を英語で言えるようになるんだ。  
よし、やるぞ!

### 授業で行う各活動の有機的な関連を図りましょう

授業は、その時間のねらいを達成することを目指して行われます。そこで教師は、そのねらいを達成するために、どのような流れで授業を行ったらいいか、また、どのような活動を設定すると効果的かなどを考え、準備し、授業に臨みます。

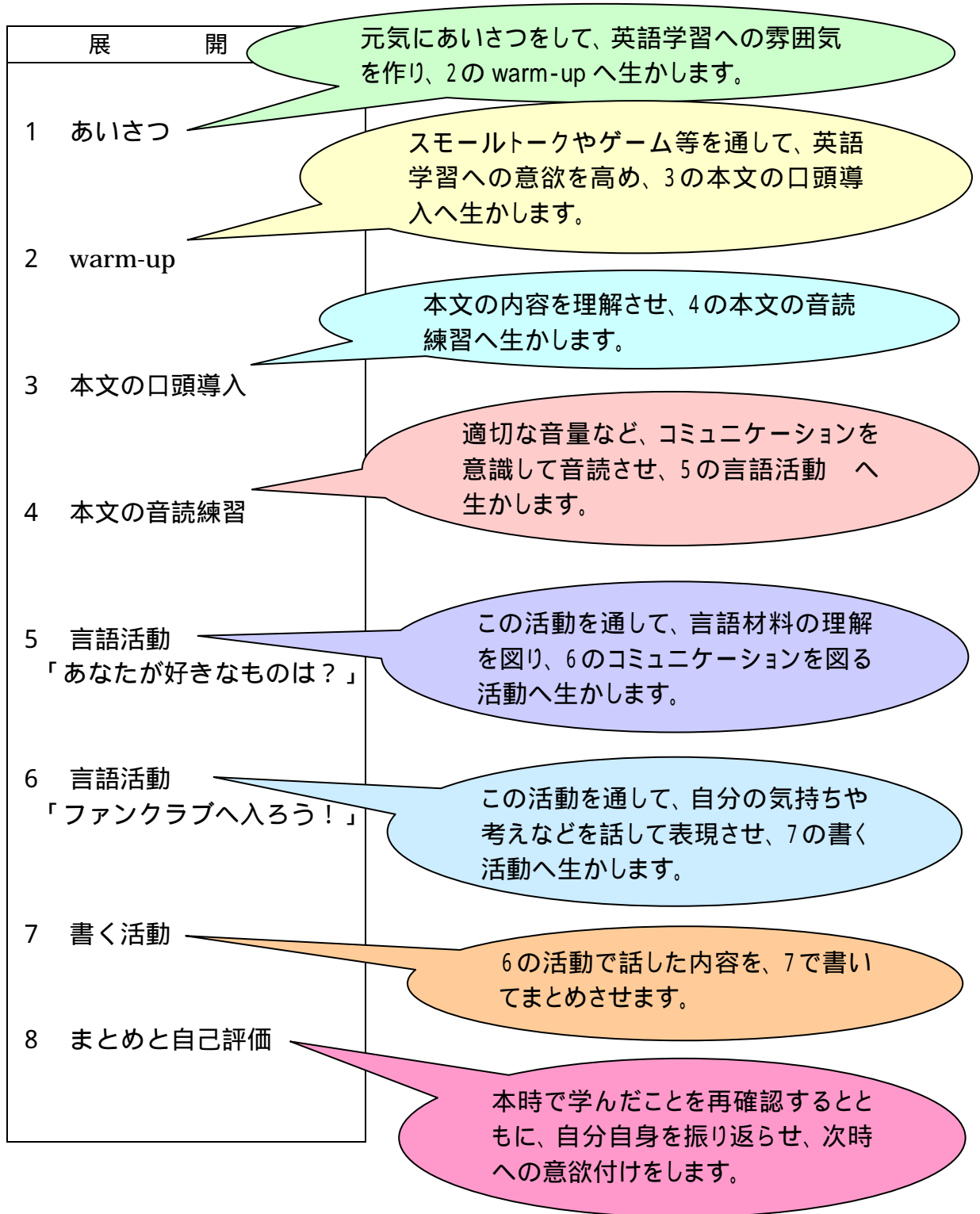
その際、教師が常に意識しておかなければならないことは、それぞれの活動を有機的に関連させて行うということです。有機的に関連させるとは、活動を次の活動に生かすということです。そうすることで、生徒の意欲の高まりや理解の深まりを促すことができ、生徒にとって「分かる授業」となります。

#### 有機的な関連とは？



生徒の関心・意欲・態度の高揚や理解の深まりを促し、授業のねらいを達成する

次に示したのは、ある授業の学習指導案の展開部分と、各活動を関連させる際の留意点です。この授業で扱う文法事項は、「一般動詞の疑問文」であり、次のような関連を意識して指導することで、生徒にとって「分かる授業」となっていきます。



\* 「言語活動」、「言語活動」及び「書く活動」の具体的な活動例は、「栃木の子どもたちの学力向上を図る授業改善プラン」(平成17年5月) 同(平成17年9月)をご参照ください。



## 2 家庭学習への意欲を高めましょう

教育課程実施状況調査によると、本県生徒の約8割は「英語の勉強は大切だ」と思っていますが、「英語の勉強が好きだ」と思っている生徒は、5割に満たない状況です。また、授業中の活動には積極的に取り組む生徒でも、家庭学習には地道に取り組むことができない生徒も多いと思われます。そのような生徒には、学ぶ喜びを実感できる学習に取り組ませることが必要ではないでしょうか。

生徒に「できた」という喜びを実感させましょう

これから、生徒に「できた」という喜びを実感させることができる取組を紹介しましょう。家庭で行う単語練習と授業で行う単語テストを関連付けた事例です。ちょっとした工夫をすることで、決して楽しいとは言えない単語練習にも、生徒は意欲的に取り組むようになります。

単語練習は、スペリングや意味を覚えるために行いますが、生徒はどれだけその意義を理解し、練習に取り組むでしょうか。例えば、宿題として単語練習を出すとき、「各単語を10回、書いてきなさい。」というように、練習する回数を指示することが多いと思われます。しかし、そのような指示を続けていると、単語を覚えなくても10回書けば練習を終わりにしてしまう生徒も出てくるのではないのでしょうか。そのような練習は、意味のあるものといえません。そこで、家庭で単語練習をしっかりと行えば、授業で喜びが得られるよう工夫し、生徒が主体的・積極的に家庭学習に取り組めるようにしていきましょう。

### 事例

生徒が宿題をやってきたかどうか、必ず確認する。その際、サインをしたり、シールを貼付したり、コメントを書いたりして、生徒の努力を賞賛する。

学習したことがすぐ結果に表れるよう、宿題を出した次時の授業で単語テストを実施し、「できた」という喜びを実感させる。

得点をグラフに表せるようにした個票を生徒にもたせておき、自分の努力の跡を視覚的に確認できるようにする。

<宿題 点検 単語テスト>というサイクルに慣れさせ、家庭学習が実り多いものであることを実感させる。



しっかりと家庭学習に取り組めば、結果となって表れるんだ。  
これからも、がんばろう。

## 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しましょう

学習指導要領の外国語科の目標に、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」が掲げられています。その目標を達成するためには、教師自ら積極的に英語を使う姿勢が大切です。

### 1 教師が積極的に英語を使い、英語を使う楽しさを伝えましょう

次の表は、県内の英語教員の授業における英語の使用状況（平成 17 年度）について表したものです。これを見ると、授業の「大半」あるいは「半分以上」を英語で行っている英語教員の割合は、第 1 学年、第 2 学年では 5 割を超え、第 3 学年でも 5 割に近くなっており、この割合は年々増加しています。このことから、先生方の意識の変容と授業スタイルの変化を推察することができます。

平成 17 年度 県内公立中 学校 169 校	大半は英語を用いて 行っている	半分以上は英語を用い て行っている	英語を用いることは あるが半分または それ以下である	英語の使用は ほとんど あるいは 全くない
第 1 学年	13 校(7.7%)	83 校(49.1%)	73 校(43.2%)	0 校(0%)
第 2 学年	7 校(4.1%)	86 校(50.9%)	76 校(45.0%)	0 校(0%)
第 3 学年	12 校(7.1%)	69 校(40.8%)	88 校(52.1%)	0 校(0%)

ここで、教師が授業を英語で進めることの利点について、Q & A としてまとめてみました。「英語で授業を進めるのはどうも・・・」と考えている先生方は、これらを参考に、明日からの授業を行っていただきたいと思います。

Q 1 なぜ、英語で授業を進めるのですか？

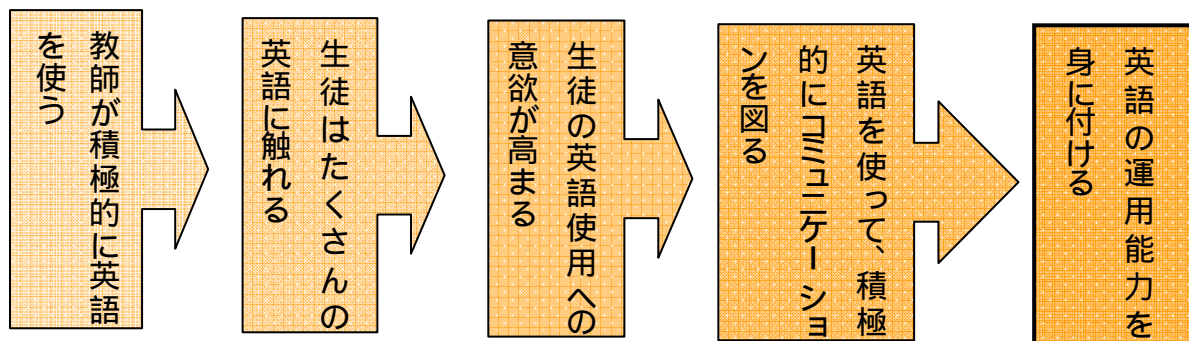
A 1 生徒の英語使用への意欲を高めたり、英語の運用能力を高めるのに役立てたりするためです。

今、中学校の英語教育では、「使える英語」を生徒に身に付けさせることが求められています。そのためには、まず教師が積極的に英語を使うことによって、生徒のよいモデルとなることが大切です。教師が英語を使わなければ、生徒は英語使用の意義やよさを感じることはできず、「使える英語」を身に付けさせることは難しいと考えます。教師が英語を使うことによさとして、次のようなことが考えられます。



生徒がたくさん英語に触れることができる。  
 授業にテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気を作ることができる。  
 教師がモデルとなることで、生徒の英語使用への意欲の高まりが期待できる。  
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、生徒は英語を使うことの楽しさを実感することができる。  
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、単なる知識・理解ではない英語の運用能力を身に付けさせることに役立つ。

以上のことを図に表すと、次のようになります。



Q 2 授業のどのような場面で、英語を使えばよいのですか？

A 2 授業のある特定の場面ということではなく、英語を使って授業を進めながら補助的に日本語を使う、と考えましょう。

英語の授業では、「あいさつ」「ウォームアップ」「本文の導入」「本文の音読」「言語材料の導入」「言語活動」など、様々な活動場面があります。ある場面では英語を使い、また別のある場面では日本語を使うということではなく、英語で授業を進めつつ、必要に応じて日本語で補足すると考えましょう。



英語で授業を行い、補助的に、そして効果的に日本語を使いましょう！

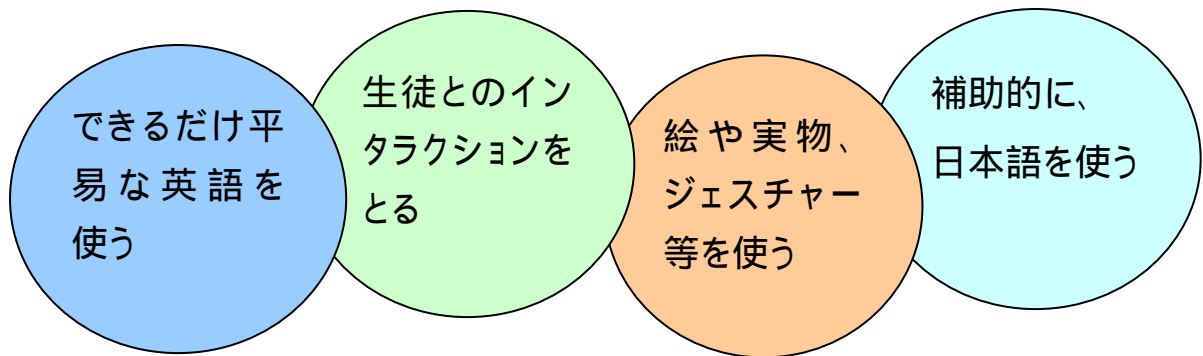
「日本語で補足する」とは、英語で言った後、それをすべて日本語に訳して言うということではありません。そうしてしまうと、生徒の耳には英語が入らなくなります。生徒の理解の状況に応じて、特に必要なことについてのみ日本語で補足しましょう。



先生は、同じことを日本語で  
言ってくれるから、英語なんて  
聞かなくて大丈夫さ！

また、英語で授業を進めていくとよいテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気ができるので、日本語で補足する場合も、それらを崩さないようにしたいものです。

なお、英語で授業を進めていく際には、生徒の不安を軽減するとともに、理解を促すことができるよう、下記のような配慮をしていくとよいでしょう。



それでは、「言語活動」の場면을例に、活動の仕方を英語でどのように説明すればよいか、具体的にみていきましょう。

次の例は、「一般動詞の疑問文」の「理解や練習のための活動」として行う、ヒューマンビンゴです。この活動の仕方を説明する際、心がけたいポイントが二つあります。一つは、生徒に配布するワークシートの一部を拡大した提示用カードを使うことです。もう一つは、活動の仕方を「説明する」というよりも、提示用カードを使いながら「示す」ようにすることです。そうすることで、言葉による説明では理解することが難しい生徒にも理解を促すことができます。

ポイント1

**提示用カードを効果的に使う**

ポイント2

**「説明する」のではなく「示す」**



大きなカードを使いながら、実際に  
やり方を示してくれるから、分かりや  
すいなあ。

活動名「あなたはスポーツが好き？」

T: Now, let's play Human Bingo " Do you like sports? "

S: Yes.

T: Please help me, Naomi.

活動のモデルを示すため、生徒の協力を得る

N: Sure.

T: Thank you, Naomi.

Everyone, please look at these two cards.

This is Naomi's card. That's mine.

提示用カードを黒板に貼る

< Naomi's card >

提示用カード

like	play	have
sports		
music		
movies		

生徒に配るカードの拡大版を、画用紙などで作っておく

T: First, I'll ask you, Naomi.

N: OK.

T: Do you like sports?

N: Yes, I do.

T: Naomi's answer is " Yes, I do. "

When your friend answers " Yes, I do. ", please circle like this.

このように言いながら、教師の提示用カードの sports を で囲む

< Teacher's card >

like	play	have
sports		
music		
movies		

Now, Naomi's turn. Please ask me.

N: OK. Do you have a dog?

T: No, I don't.

I answered " No, I don't. " Naomi can't circle the dog. Sorry, Naomi.

このように言いながら、手で×を示すなどして、犬の絵を で囲めないということを示す

この後、もう一度モデルを示し、生徒の理解を促す

## 2 言語活動を工夫し、コミュニケーションの楽しさを味わわせましょう

先に述べたように、教師が積極的に英語を使うことによって、生徒の英語使用についての意欲が高まることが期待できます。さらに、授業で行う言語活動を工夫することによって、生徒が意欲的に取り組めるようにしましょう。そして、言語活動を通して英語を使わせ、生徒にコミュニケーションの楽しさを実感させることが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながります。



ここで、前ページの「言語活動の工夫」で示したポイントのうち、次の3点について具体的な活動例や留意事項を挙げてみたいと思います。

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」  
の各領域について、活動のバリエーションをもつ

## 1 「聞くこと」の活動

### (1) 基礎的な活動

- ・アルファベット、単語、数字などの聞き取り
- ・ビンゴ、TPR、絵などを用いた活動



### (2) 内容のある活動

- ・単文、まとまりのある文、スモールトーク、歌 など
- ・T-Fクイズ、書き取り、図表の完成、メモを取る など

## 2 「話すこと」の活動

### (1) 基礎的な活動

- ・あいさつ、簡単なQ&A、ストラテジー など

### (2) ゲーム性のある活動

- ・インフォメーションギャップ、ヒューマンビンゴ など

### (3) 生徒のアイデアを生かす活動

- ・プラスワンダイアログ、オリジナルダイアログ、スキット など
- ・スピーチ、Show & Tell、ストーリーテリング など

## 3 「読むこと」の活動

### (1) 音読、黙読、Read & Look up

### (2) 速読、多読

### (3) ポイント読み

- ・事前に与えられたに質問に答える、  
トピックセンテンスを探す、タイトルを付ける、質問を書く など



## 4 「書くこと」の活動

### (1) 単語を書く活動

- ・しりとり、アルファベット順、ビンゴ、ウェッピング など

### (2) 単文を書く活動

- ・文を聞きながら、暗記して、黒板を消しながら など

### (3) 課題作文

- ・自己紹介、日記、手紙、英字新聞、ストーリーメイキング（物語の最後の部分を書かせるなど）、セリフ（4コマ漫画など）を書く など



## 生徒が興味・関心をもつ題材を取り上げる

### 1 視聴覚教材に関するもの

- (1) 絵、写真、ポスター、地図 など
- (2) 歌、チャンツ など
- (3) DVD、VTR、プレゼンテーションソフト、OHP、OHC など
- (4) 小物

### 2 題材内容に関するもの

- (1) 教科書の題材を取り上げたもの
- (2) 身近な事柄を取り上げたもの
  - ・趣味、予定、好きなもの など
- (3) 季節の行事などを取り上げたもの
  - ・修学旅行、クリスマス、バレンタインデー、祝日 など
- (4) 今日的なトピックを取り上げたもの
  - ・環境問題、国際交流 など



### 3 各種資料（英語で書かれたもの）の利用

- (1) 新聞、雑誌 など
- (2) カタログ、案内書、説明書、注意書き、申込書、レシピ など

## 活動の形態（個、ペア、グループなど）を考える

一単位時間の授業では、生徒に様々な活動をさせます。そのとき大切なことは、各活動のねらいを達成できる適切な活動形態で生徒に活動させることです。活動形態が適切でないと、その活動を通して生徒に身に付けさせようとした力などが身に付かず、時間の無駄遣いとなってしまうことになります。

ここで、ペアでの活動について考えてみます。ペアでの活動としては、隣同士など固定のペアで活動させる場合と自由に相手を選んで活動させる場合があります。

固定のペアで活動させる利点は、教室内を歩かせる必要がないので時間がかからないこと、また、生徒の人間関係を反映させることなく活動させられることです。

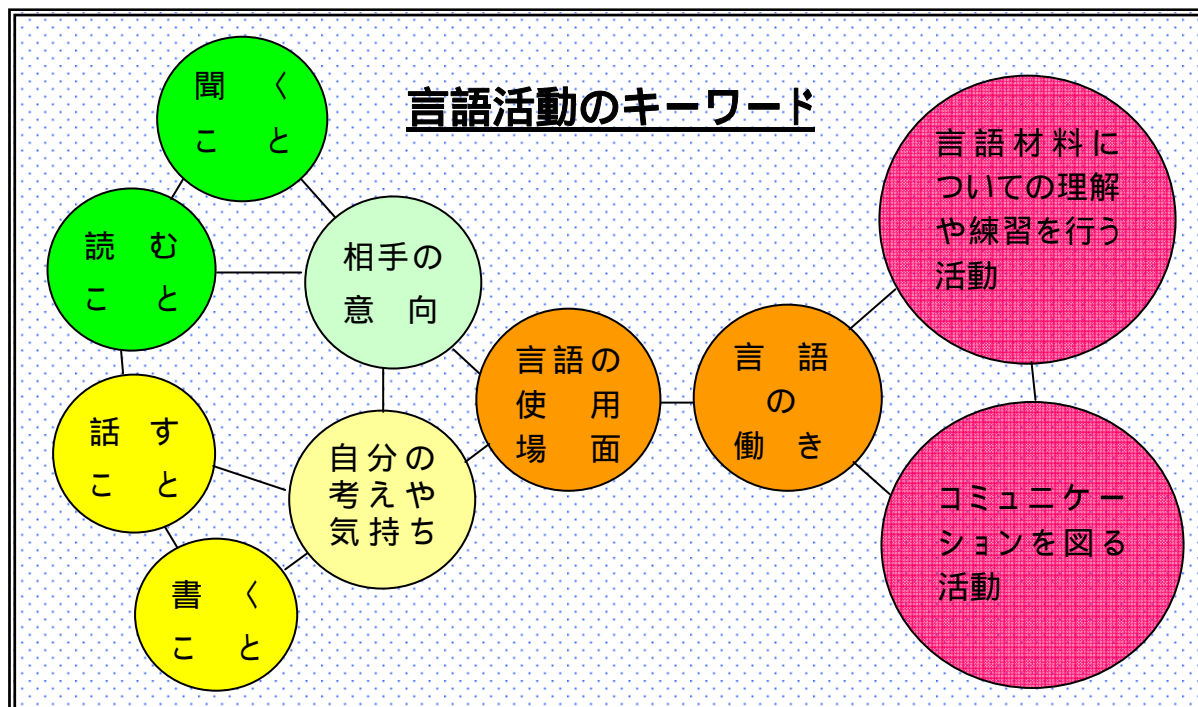
一方、自由に相手を選んで活動させる利点は、何と言っても、多くの友人と意見交換ができることです。

このように、それぞれの形態の利点を生かし、適切な形態を選択して活動させることが大切です。





また、言語活動を設定する際、念頭に置いておかなければならないキーワードとして、次のものが挙げられます。



## 「聞くこと」の力を高める指導の工夫をしましょう

これまでの調査では、「聞くこと」については、概ね良好な結果となっています。しかし、調査問題を個別にみていくと、課題もあります。今後、さらに高めていきたい力として、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」が挙げられます。

学習指導要領「2 内容(1)言語活動」には、「英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる」とあり、領域ごとにいくつかの指導事項が示されています。そのうち、「聞くこと」の指導事項に、次のようなものがあります。

(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

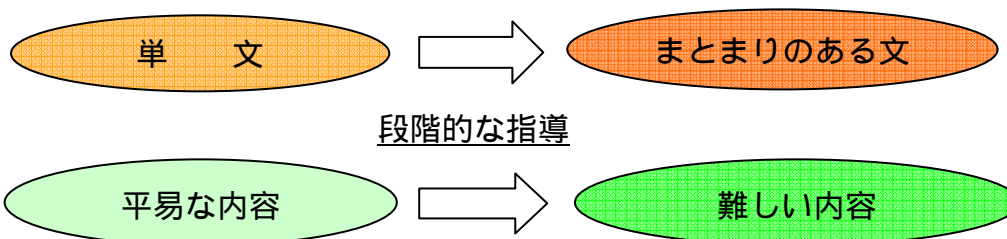
それでは、どのような指導をすれば、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」を高めることができるのでしょうか。

現在の教育課程での限られた時数で、様々な副教材を授業に取り入れることは難しいと思われます。そこで、これまで先生方が実践されてきた方法をもう一度見直し、授業で無理なく実践できるものを取り上げました。ねらいを明確にして実践することで、より効果があげられると考えます。

## 1 「要点を聞き取る力」を高める指導の工夫をしましょう

### 段階的な指導をしましょう

生徒の「要点を聞き取る力」を高めるには、単文からまとまりのある文へ、また、内容は平易なものから難しいものへ、というように、段階的な指導を心がけることが大切です。



さらに、どのような点に注意して聞き取ればよいかなど、生徒に聞き取りのポイントを理解させることも大切です。そうしないと、生徒はどのような点を聞き取ればよいかわからずに、漫然と聞き流してしまうことにもなりかねません。

### 単文レベルの指導

身近な事柄を取り上げて、いくつかの単文を聞かせます。一つの文の聞き取りに集中すればよいので、生徒にとっては取り組みやすいものとなります。聞き取った文の内容が正しいと思ったら挙手をさせ、理解の状況を確認めます。

このとき、教師が示す文の内容として、一部の生徒しか分からないようなものは取り上げないようにします。例えば、Ichiro is on Seattle Mariners. のような文は、野球に興味がない生徒は分からないと思われるので扱わない、ということです。ただし、多くの生徒が分からないと思われる内容なら、正解を予想するクイズ感覚で行え、生徒も興味をもって取り組むことができます。次の文例のうち、【外国について】の文がそれに当たります。

### 文例

【事実について】

There are seven days in a week.

May 5 is the day for boys.

Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

【学校生活について】

We have five classes today.  
There are thirty students in this class.  
All the students in this class like English.

【外国について】

Baseball is more popular than soccer in South Korea.  
We can watch NHK *Nodojiman* on TV in America.  
The tallest building in the world is in Taiwan.

### まとまりのある文の指導

ある程度まとまりのある文を聞かせるときは、学年や生徒の実態に応じて、文の量や難易度を考慮することが必要となります。特に、用いる語彙や文法によって難易度が変わるので、事前によく吟味しておく必要があります。一方、学習した直後の語彙や文法を意図的に用いることもできます。

次に示すのは、学年に応じた文例です。いずれも、教師が写真を示しながら、生徒にとって身近な「友達の紹介」を取り上げたものです。同じ話題でも、学年によって用いる語彙や文法事項が異なり、難易度が変わるといことが分かります。

対象学年：第1学年  
時 期：3人称単数現在形を学習した後  
文 の 数：5文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
He plays baseball in the park.  
He likes music too.  
He plays the guitar very well.

対象学年：第2学年  
時 期：動名詞を学習した後  
文 の 数：7文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
Baseball is his favorite sport.  
He enjoys playing baseball on Sunday.  
He likes music too.  
He likes playing the guitar with his friends.  
Every Wednesday he goes to a studio to play the guitar.

対象学年：第3学年

時期：現在完了形（継続の用法）を学習した後  
文の数：9文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
Baseball is his favorite.  
He has played baseball for seven years.  
His father has taught him how to play.  
He loves music too.  
Hip-hop is his favorite.  
It makes him excited.  
He has learned hip-hop dancing for three years.

### スモールトークを活用しましょう

スモールトークは、ウォームアップなどでよく行われるもので、生徒同士で話をさせたり、教師が生徒に話を聞かせたりする活動です。もちろん、教師が生徒とインタラクションを取りながら進めることもあります。教師が行うスモールトークには、次のような利点があります。

短い時間で行うことができる

既習事項を意図的に用いて話すことができる

#### 教師が行うスモールトークの利点

身近な話題を扱うことで、生徒の興味・関心を高めることができる

生徒の実態に合わせて話す内容や速さを変えることができる

こんなに利点のあるスモールトークを、ぜひ授業で活用したいわね。



## 教師が行うスモールトークの例

対象学年：第2学年

トピック：日曜日にしたこと

指導手順： 教師自身が日曜日にしたことを、インタラクシオンをとりながら話す。

インタラクシオンをとらず、もう一度話をする。

T - Fクイズを行い、生徒の理解度を確認する。

配慮事項： ' インタラクシオンをとることで、生徒の興味・関心を高める。  
' 聞き取りのポイントを確認してから話をするようにし、要点を理解することに集中させる。  
' 生徒の実態に応じて、Q & Aなどを取り入れる。

T: Now I'll tell you about yesterday. What day was yesterday?

Ss: Sunday!

T: Right. Yesterday was Sunday. I went to Tokyo Disney Land with my family. Do you like TDL?

Ss: Yes.

T: Oh, many of you like TDL. There are a lot of attractions in TDL. Which attraction do you like the best? How about you, Ken?

K: I like Space Mountain the best.

T: Is that right? My son loves Space Mountain too. He wanted to ride it, but a lot of people were waiting there. It took about an hour to ride it.

S: That's lucky! When I was there, I waited more than two hours.

T: Wow! You're kidding! Who likes Space Mountain? Please raise your hands.

(About half of the students raised their hands.)

T: Wow, many students like Space Mountain. Why do you like Space Mountain, Yumi?

Y: Because it's exciting.

T: Oh, I see. After all we could ride only five attractions yesterday. We came home about eleven. We were very tired.

OK. Now I'll tell you my story one more time. Please listen carefully. Especially, where did we go yesterday? What did we do there? What time did we get home? After that, I'll give you T-F quiz.

\* 下線部は、「聞き取りのポイント」

こういったスモールトークを繰り返すことで、生徒は聞くことに慣れるとともに、ポイントを絞って聞くことができるようになります。

利点が多く、準備に手間をかけずに無理なく行うことができるスモールトークを、意図的・継続的に授業に取り入れていきましょう。

## 2 「適切に応答する力」を高める指導の工夫をしましょう

教育課程実施状況調査で、「英語での問いかけに応答する」というねらいで出題された問題について、本県の通過率が低かったものに、次のようなものがありました。

英語の話しかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを1～4の中から一つ選んで、その番号を の中に書きなさい。話しかけは2回繰り返して言います。

(1) <学校で友達が>

- |   |                      |       |      |
|---|----------------------|-------|------|
| 1 | I am sick now.       | 4.1%  |      |
| 2 | I am OK now.         | 11.2% |      |
| 3 | I was sick in bed.   | 30.7% | (正答) |
| 4 | I am playing tennis. | 53.7% |      |

<Script>

M: I didn't see you at tennis practice yesterday. What were you doing?

くり返します。

.....

(2) <家でお母さんが>

- |   |               |       |      |
|---|---------------|-------|------|
| 1 | Father is.    | 24.1% |      |
| 2 | Mother is.    | 12.1% |      |
| 3 | All right.    | 44.3% | (正答) |
| 4 | That's right. | 19.1% |      |

<Script>

M: Father is cooking in the kitchen. Will you help him?

くり返します。

.....

それぞれの問題の通過率が低かった原因として、読まれた文の意味を理解できなかったということとともに、次のようなことが考えられます。

(1)では、4の I am playing tennis. という文を正解として選んでしまった生徒の割合は、5割以上となっています。これは、質問文が What were you doing? という進行形を用いたものであったため、その言語形式に合うような選択肢を選んでしまった生徒が多かったと思われます。(2)では、4の That's right. を選んだ生徒の割合は、約2割となっています。All right. と That's right. は表現が似ており、生徒は混同してしまったのではないかと考えられます。

それでは、生徒がそのような誤りをしない力を身に付けたり、適切に応答すること



ができる力を高めるためには、どのような指導をしていけばよいでしょうか。ここでは、二つのポイントを示します。

言語形式にとらわれすぎないようにするために

授業中の言語活動について、言語材料についての知識・理解を深める活動(「言語材料についての理解や練習を図る活動」)だけではなく、考えや気持ちを伝え合う活動(「コミュニケーションを図る活動」)もバランスよく行い、それらを通して、相手の意図を理解する力を高める。

「言語材料についての理解や練習を図る活動」は、まさに言語形式に慣れさせるために行う活動です。そのため、授業で行う活動がそういった活動に終始してしまうと、生徒は言語形式にのみ意識が向いてしまいます。もちろん、正しい言語形式を身に付けることは大切ですが、それが身に付けばコミュニケーションを図れるというわけではありません。

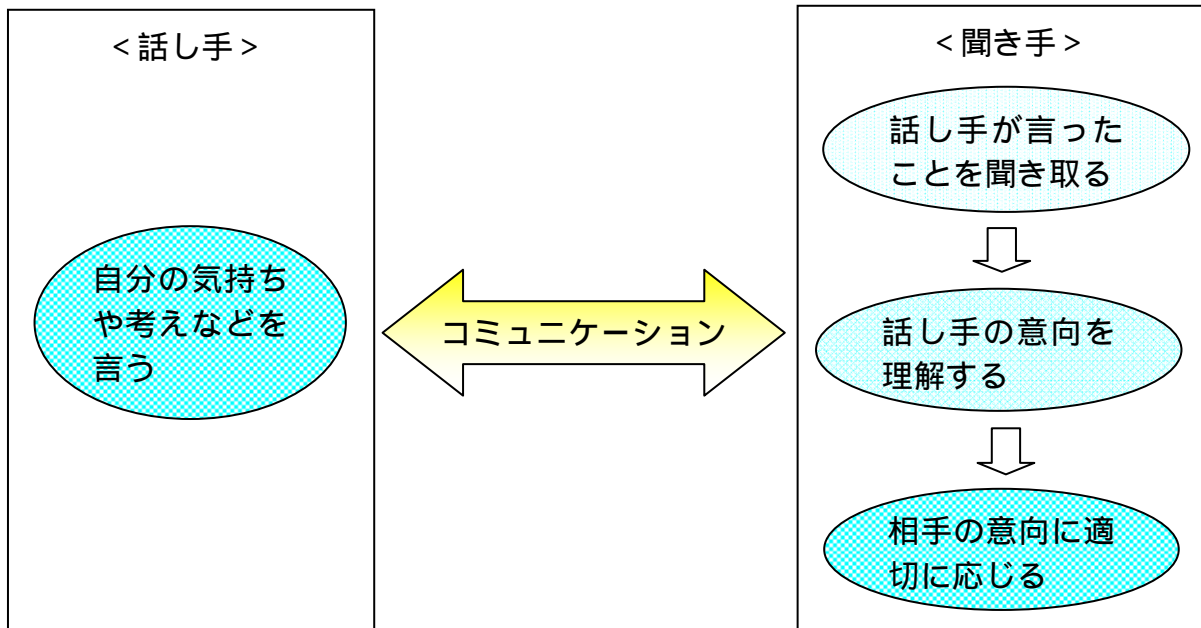
そこで、「コミュニケーションを図る活動」でメッセージのやりとりを通して、その時間で学んだ文法事項や既習の表現を使わせるようにします。ここでは、相手と意思疎通を図ることが重要となるので、相手の意向などに応じて、適切な表現を選択して使用することになります。適切な表現とは、ときには、定型的な表現とは異なる場合もあるので、このような活動を通して、生徒に英語をコミュニケーションの手段として使う経験を積ませていくことが大切です。

似た表現を混同しないようにするために

知識としてだけでなく、教師とのインタラクションや言語活動などを通して、実際に英語を使うことを通して身に付くようにする。

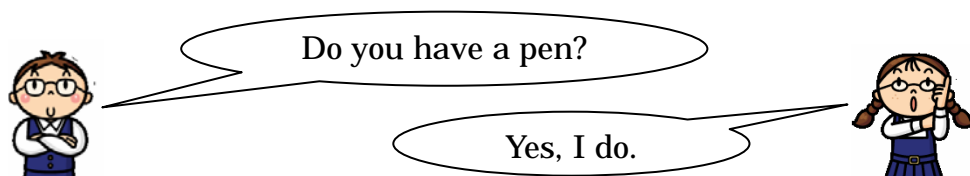
場面設定した言語活動の中で、適切な表現を用いるようにさせます。意味のある場面で使うことによって、表現を単なる知識として記憶するのではなく、より現実感を伴って定着を図ることができます。

ここで、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る場面を考えてみましょう。まず話し手が自分の気持ちや考えを言います。聞き手は、まず、話し手が言った文の意味を理解します。さらに、その文の内容から相手の意向を理解します。そして、それらを理解するだけでなく、言葉や行動などで「相手に適切に応じる」ことでコミュニケーションは成立します。

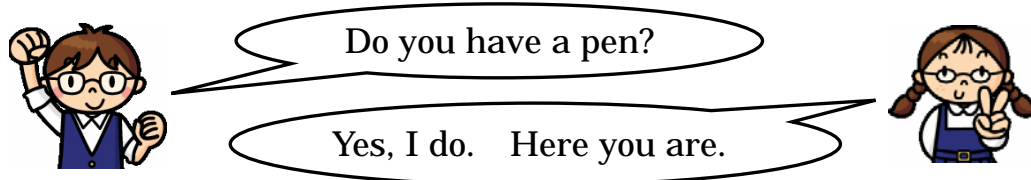


いずれにせよ、教師は、日常の授業を通して生徒の「適切に応答する力」も高めていかなければなりません。

ここで、英語使用の一場面を例に取り、考えてみましょう。次の対話例を見てください。相手に“Do you have a pen?”と尋ねられたとき、もし自分がペンを持っていれば“Yes, I do.”と答えます。これは、文法的には正しい応答です。



しかし、コミュニケーションという点からは、このような応答では十分とは言えない場合が多いのではないのでしょうか。なぜなら、日常生活においてこのような質問をするのは、相手がペンを所有しているかどうかに興味があるというより、ペンを持っていたら貸してもらいたい、という意図があるからです。ですから、聞き手はその意図を理解し、下の対話例のような受け答えをして、ペンを貸すことで適切な応答となり、コミュニケーションが成立したことになります。



このような、相手に「適切に応答する力」を生徒に身に付けさせるためには、教師が様々な言語活動を設定し、実際に生徒に英語を使わせることが大切です。そうすることで生徒は、単なる知識としてではない、「使える英語」を身に付けていくことができるのです。

## 平成 18 年度 研究委員会（中学校・英語科）

|        |             |       |       |       |
|--------|-------------|-------|-------|-------|
| 総 括    | 栃木県総合教育センター |       | 所 長   | 五味田謙一 |
| 研究委員長  | 同           | 研究調査部 | 部 長   | 江部 信夫 |
| 研究副委員長 | 同           | 研究調査部 | 部長補佐  | 杉田 知之 |
| 委 員    | 下都賀教育事務所    |       | 副 主 幹 | 青木千津子 |
| 同      | 塩谷教育事務所     |       | 指導主事  | 伊藤 由悟 |
| 同      | 学校教育課       |       | 指導主事  | 柴田 隆一 |
| 同      | 栃木県総合教育センター | 研究調査部 | 副 主 幹 | 矢口 真一 |
| 事 務 局  | 栃木県総合教育センター | 研究調査部 | 副 主 幹 | 矢口 真一 |
| 同      | 同           | 研究調査部 | 指導主事  | 小川 順子 |

平成 18 年度 栃木の子どもの学力向上を図る学習指導プラン  
確かな学力を育むために  
【中学校・英語科】

発 行 平成 19 年 1 月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-c.ed.jp>

栃木の子どもの  
学力向上を図る  
学習指導プラン  
【中・英語科】



いきいき栃木っ子3あい運動  
- 学びあい 喜びあい はげましあおう -